

えっとまめな介護だより Vol.50

益田市では、介護人材確保に向けて介護職場の認知度向上に取り組んでいます。
今回は令和7年度に開設した事業所の方にインタビューしました！

新人の頃のエピソードを教えてください。
(原田さん) 担当していた方の中に、1人暮らしの方がいました。その方の生活が不安だった私は、毎日のようにご自宅を訪問した



「居宅介護支援事業所つなぐ」の皆さん
(左から西村さん、原田さん、鹿野さん)



居宅介護支援事業所

つなぐ

事業所名の由来を教えてください。

(鹿野さん) ケアマネジャーとして働く中で、介護サービスだけではなく、人と人とのつながりが利用される方の暮らしを支えていることを強く感じています。利用される方、ご家族、地域、専門職がゆるやかにつながりあい、制度や決まりごとによりかわれることなく、利用される方に寄り添い、お手伝いをしたいという思いを込めています。

り、電話をかけたりと必死になっていました。その方はいくつと自身の能力や地域、介護サービス事業所などの支えにより、平穩に暮らしていました。本人の力を活かしつつ、支援者がチームとなって生活を支えていくことが大切だと感じました。

(鹿野さん) 新人ケアマネジャーとして働き始めた頃、先輩に「ケアマネジャーの仕事は、利用される方の家族やサービス事業所など、関わるすべての方が支えてくれるからこそできること」と言われたことがあり、この言葉を忘れないようにしています。

これから介護従事者を目指す方にメッセージをお願いします。

(原田さん) 人生では、たくさんの人と巡り合います。ケアマネジャーの仕事は、その人の大切な人生の一部に携わることができる奥深い仕事だと思えます。人のために働きたい方や人と話すのが好きな方に向いている仕事だと思えます。

(西村さん) 利用される方、ご家族などさまざまな方と関わる中で、感動するできごとがたくさんあります。さらに、住み慣れた地域に助けてくれる方がいることを認識でき、将来に希望が持てます。また体力次第ですと続けられるのもこの仕事の魅力だと思えます。

なぜ事業所を立ち上げようと思ったのですか？

コロナウィルスの流行がきっかけです。当時は病院に勤務していたのですが、患者とご家族の面会ができなかったり、ご家族が最期に立ち会えなかったりすることが続きました。その中で、患者やご家族が納得できる最期を迎えられるような選択肢を提供できたらと思うようになり、訪問看護ステーションを立ち上げました。ゆくゆくは、地域で高齢者が集まり、普段の会話で「人生会議」ができるような場、そして顔の見える関係を作りたいと考えています。

一日のスケジュールを教えてください。

8時半に勤務が始まります。まず、前日の夜の緊急対応や、その日に訪問予定の利用者さんについて情報共有を行います。その後、午前と午後各2件程度のペースで訪問しています。



「訪問看護ステーションらく」
管理者の齋藤さん

忘れられないエピソードを教えてください。

秋頃に退院され、年を越せないかもしれないと言われていた方に、何とか年を越してほしいという思いでケアを担当しました。その方のご家族とは、一緒に外出したり、お茶を飲んだり、まるで家族や親戚のように過ごしました。その方と新年を迎えることができ、ご家族と一緒に看ることの大切さを感じました。

仕事のやりがいは何だと思いますか？

自分が行なったケアがどうだったかを目で見て感じられるところだと思います。病院では日によって担当する方が変わりますが、当ステーションでは主担当と副担当のような担当制でケアを行うため、ケアに対する思いを形にしやすいです。またご家族から「家で最期を迎えられて本当によかった」「家もいいね」という声を聞く、やってよかったなと感じます。

趣味・マイブームは何ですか？

毎年秋頃から、陶芸で次の年の干支を作っています。いろいろ考えずにクリアな気持ちで取組めるので、リラックスできます。

インタビューにご協力いただいた皆さん、ありがとうございました♪